

令和7年度
第2弾製造分野における
DX推進

DX

コース番号：129-033

2025年

開催日時：9月29日(月) 募集締切：9月12日(金)
9:30~16:30 (6時間)受講料
3,300円(税込)開催場所：ポリテクセンター山梨
定員：16名程度(先着順)
推奨者：中堅層～管理者層

コースの狙い

生産現場で用いられる各種製造装置や製造工程の監視・制御にICTやIoTなどのデジタル化を組み込むことにより、製品やサービス、ビジネスモデルの改革(DX)を推進して、生産性向上、ビジネス競争力を獲得する方法を理解します。

主な訓練内容

◎ 製造業におけるDXの理解

(1) なぜDXが必要なのか

「DX」プロジェクトがデジタル化にとどまることがないように、あらためてDXの意味を解説します。
「DX」が広く世の中でどのように用いられているかを再確認、参加者が自社におけるDX後のイメージ像を描くことができるようにします。

(2) DXにおける重点課題

世の中にあふれている成功事例だけではなく、独自調査による失敗事例をもとに、DX化を進める上で重点的な課題となる事項を説明します。
参加者がDX失敗のリスクにも目を向け、俯瞰的な視線をもってDX化推進に取り組めるようにします。

(3) 自社におけるDXの必要性和課題の具体化【演習①】

実際に演習を通して、自分事として講座の内容を整理し、以降の講座コンテンツをより自分事として理解できる土台を整えます。

◎ DX実現事例

(1) 生産性の向上

生産性の向上の一般的な手法を解説したのち、関連するDX実践の事例を解説します。事例の解説では、DXの根底に表面的なデジタル技術の活用技術だけではなく、泥臭い生産性向上の技法が必要であることを理解できるように説明します。

(2) ビジネス競争力の強化

ビジネス競争力の強化の一般的な手法を解説したのち、関連するDX実践の事例を解説。事例の解説では、(1)と同様に、本質的なビジネス競争力の強化の技法が根底にあることを理解できるように説明する。

◎ DX推進の目標設定と解決策

(1) DX推進における目標設定のポイントと具体例

DXにおける目標設定のポイントを解説、特に、自社や業界が抱える課題をうまくDXの目標化するための工夫や、組織の活動に馴染ませるために有効な方策について、実例を示しながら参加者の腑に落とします。

(2) 解決策として使用できるデジタル技術の紹介

課題を解決するために使用できるデジタル技術についていくつか紹介します。(OCR,RPA,AI,クラウド等)

(3) 自社のDX推進の目標設定と解決策【演習②】

演習①で作成したワークをもとに、「自社におけるDXの必要性和課題」を「目標」に変換し、その上で、この章で学んだことをベースに目標を達成するための手段を具体化します。

◎ DX推進の計画実行

(1) プロジェクトマネジメント 計画の立案や実行を行うための知識を身に着けます。

(2) 自社のDX推進の計画立案【演習③】

演習②で作成した「自社のDX推進の目標設定と解決策」をもとに、この章で学んだことをベースに具体的な計画を立案する。

○ 訓練内容のココがポイント！

DXにおける重要な知識を、DXに馴染みのない方でも理解できるように実例をもとに説明を行った後、実際に参加者が持ち帰ることのできる形になるように演習を適宜行っていく構成としました。また、DXの実行に当たっての課題の一つである組織への浸透についても、講座の各所で解説を行う構成とし、それによりDX初心者でも参加しやすく、かつ自社に適用しやすい具体的なアウトプットのあるカリキュラムとなるように設計しました。

実施機関&講師

一般社団法人中部産業連盟
コンサルタント

中西 渉氏



講師Profile

高知大学理学部情報科学科卒。大手ガス機器メーカーにてIoT製品開発に従事後、中産連にて製造業を中心に生産性・品質向上コンサルティング、人材育成、設計能力向上セミナーなどを支援。特に「ものづくりとITをつなげる」をテーマとした研修講師として豊富な実績を持つ。現場に根ざした実践的な視点から、製造業のDX推進を支援します。

お申し込みは

※ 当HP内「令和7年度オープンコース第2弾受講者募集のご案内」の下部に、Excel形式で直接必要事項が入力できる「オープンコース第2弾受講申込書」があります。